

## 2025 国際教養科 NEWS 7月 ②

## 2年国際教養科 イギリス語学研修 4日目から6日目

㈱ISA 高崎支店の教育旅行添乗員のバレスター・あゆみさんが毎日送ってくださっている報告書の続編です。

## 【長野西高等学校 海外語学研修 4日目報告書】

研修4日目。昨夜から一気に気温が下がり、肌寒い朝となりました。日中の気温は20℃に届かず、長袖の服がちょうど良いと感じる気候です。寮からカレッジまでの道のりは住宅街を歩いて行くのですが、石畳が続く小道や、童話に出てくるようなレンガ作りの家を横目に進みます。リスが塀の上を走る姿を見ると、映画の世界に迷い込んだような気分になります。通学時間も異国を感じる貴重な時間です。

本日はアクティビティからスタートです。昨日と同じくバスに乗って市街地へ移動します。アクティビティリーダーのAiliとCharlieから渡された課題に沿って、建物やお店、様々なサインを探しに行きます。自由行動でいくつかお店を散策しましたが、課題の内容は簡単ではありません。注意深くお店を見たり、時に道行く人に尋ねたり。それでも簡単に答えは見つかりません。中には、博物館のスタッフの方に聞いてみたけれども正解が分からない！ということもありました。制限時間内に全問正解するのは難しかったかもしれませんが、また一步オックスフォードの街を知ることができました。

午後は英語のレッスンです。渡航前にクラス分けのテストを受けていますので、英語レベルは差が出ないように割り振られています。しかし、読み書きができるからと言ってクラスの中で活躍できるかというところ…そうではありません。授業の内容が簡単・難しいというのはもちろんのこと、苦戦するのがクラスメイトとの会話です。私たちと一緒に英語のレッスンを受けているのは、イタリア、ポーランド、スペイン、トルコ、台湾から来た中高生。特に人数の多いイタリア人生徒に圧倒されてしまうこともありました。イタリアアクセント（なまり）が強く、そして話すスピードが速い！授業中には先生から聞かれてもいないのに発言をする、何なら周囲にクラスメイトがいないかのように先生と会話を続けるなど。日本で受けてきた授業とは全く異なる姿、初めて聞く外国なまりの英語。これを「おもしろい！」と捉えるか、「しんどいな」と捉えるかは自分の考え次第です。自分の考えを伝えられなくても、相手の言っていることが分からなくても「大丈夫！次はできる！」と気持ちを切り替えてできない自分すらも面白がれると、ここでの経験は帰国後も大きな財産となることでしょう。

夜のアクティビティでも、少し戸惑うことがありました。毎晩19:00に集まって他国の生徒とともにアクティビティに参加します。今夜は近くの公園に行ってスポーツをする予定でしたが、あいにくの雨模様。インドアクティビティがメインとなりました。映画鑑賞とカードゲームが用意されているはずなのですが、準備が整ったと思って映画を見る会場に行くと、帰り始めるイタリア人グループ。(体調が悪くない限り、基本的にアクティビティは全員参加です) 昨日のビンゴ中も、一部の男子生徒はビンゴそっちのけでボールを蹴ったり、走り回ったりしてアクティビティリーダーに連れ戻されていました。決められたスケジュールに沿って皆と行動するのではなく、自分がやりたいことをする姿は、国民性という言葉だけでは片づけられない思いを抱かされる出来事となりました。ここでは語学を学ぶだけでなく、困難に直面した時に自分がどういう感情を抱くか、解決するためにどう行動するかを学びます。他国の生徒がどのように行動するのかを目の当たりにし、自分がこれまで当たり前だと思っていたことが、国によって捉え方が大きく異なることを実感します。面白いな、と感じることもあるでしょう。嫌だな、うらやましいな、と思うこともあるかもしれません。こうした自分の感情と向き合い、周囲と折

り合いをつけていくことも、この研修で学んで欲しいことのひとつです。「昨日までは怖いと思っていたクラスメイトだったけど、今日話してみたらすっごい仲良くなれた！あの子たちの輪の中に入れた気がする！」こんなチャレンジを繰り返したら、どれだけ成長して日本に帰れることでしょうか。とはいえ、今はトライ&エラーの真っ最中。明日はどのような挑戦が繰り返されるか。西高生の奮闘をご期待ください。以上、4日目のご報告です。

## トレジャーハントでオックスフォードの街を大搜索！

### ルール説明







答え合わせ中…



## 【長野西高等学校 海外語学研修 5日目報告書】

研修5日目。本日も天候に恵まれ、爽やかな一日となりました。カレッジへと続く道のりも慣れたもの。到着した頃は日本と異なる街並みに驚いていましたが、今ではもう風景の一部となりました。本日の午前中はレッスンから始まりました。初日の月曜日から数えて3日目のレッスン。何となくクラスの雰囲気が決まってくる頃です。どこに座るか、誰とペアワークをするか。良くも悪くも慣れてくる時期です。できないながらも発言を繰り返し、徐々にクラスの中で居場所を確立できた生徒もいれば、まだまだ発言ができずに躊躇してしまう生徒もいます。先生の言っていることが理解できない、クラスメイトの話すスピードについていけなくて「分かりません」の一言を伝えられない。これがとっても悔しい！日本ではそこそこ英語に自信があったのに、ここでは歯が立たない。読み書きはできるのに、聞く話すの経験値が低いことで「自分は英語ができない」と思い込んでしまうのは、海外で英語を学ぶ多くの人が通る道かもしれません。語学学校の授業はたった5日間。この時間で英語力が飛躍的に伸びるわけではありません。しかし、自分に足りないことや勉強の必要性を感じるには十分な時間です。そしてもちろん挑戦した先にある達成感も。昨日はできなかったことが、今日できるようになった！そんな感想を抱く生徒もいます。短期間で自分が成長していることを実感できるのも、終わりが決められている研修に参加しているからこそ。語学学校での授業はあと2日。日本に戻った時に「できないこともあったけど、私は全力でやり切った！」と胸を張って帰れるように、一秒一秒を大切に過ごして欲しいと思います。

午後のアクティビティはスポーツでした。カレッジからほど近い公園で思い思いに体を動かしました。時差ぼけが解消され、体力が戻ってきた面々。待ってました！とばかりにボールやラケットをつかみ、それぞれのコートに移動します。アクティビティリーダーが準備してくれたバレーボール、バドミントン、卓球以外にも、もともと公園に備え付けられている遊具でも遊び倒します。クラスを離れて楽しみながら行うスポーツは、クラスメイトとの距離を縮められるチャンスです。いつもアクティビティの準備をしてくれるリーダーたちも混ざって、いつしか白熱した試合を繰り返しているバレーボール会場。コートの広さから考えるに、どう見ても定員オーバーな人数ではありますが、そんなことは関係なし！試合を見ている方も、思わず手に力がこもります。一方、和気あいあいとシャトルを飛ばしあうバドミントンチーム。若干風が吹く公園ではありましたが、それでもラリーが続くと大きな声で笑いあいました。

アクティビティの後、夜の集合時間までフリータイムとなりました。カレッジから寮に続く道には、スーパーやカフェなどが立ち並んでいます。既にオックスフォードの街中でお土産を物色していますが、地元スーパーは一味違った楽しみがあります。特に人気があったのは、お惣菜！入口付近にあるお惣菜コーナーで、恐らく30分くらい時間を使ったのではないのでしょうか。お寿司やスモークサーモンのサンドイッチ、濃厚なクラムチャウダー、バターたっぷりの焼き菓子。イギリスでは定番のショートブレッド。そしてビッグサイズのポテトチップ！日本では見たことのない様々なフレーバーにテンションは爆上がりです。地元のお客さんに「どこから来たの？」と声をかけてもらったり、買い方が分からなかったパン（自分で袋に詰めるタイプのパン）の会計方法を教えてもらったり。出会う皆さんは、とても親切です。ちょっと立ち寄ったスーパーだったが、地元の方々と交流する機会にもなりました。

イギリスの夏は、なかなか暗くなりません。日没が21:00過ぎなので、夜でも屋外でスポーツができます。昼間に続き、本日のナイトアクティビティはスポーツ！とはいえ、ボールやラケットは使いません。大きな公園を目いっぱい使って、皆で行ったのは鬼ごっこ。いくつかのグループに分かれて相手の陣地にある旗を取り合うゲームです。昼間あれだけ体を動かしたのに、みんなまだまだ元気です。思いっきり走って笑って、ようやく一日が終了しました。以上、5日目のご報告です。

爽やかな青空の通学路



バレーボール白熱教室



勝田先生と一緒にバドミントン♪



和やかな卓球



Oliver と一緒に芝生の上でカードゲーム



真剣な眼差し in スーパーマーケット



## 【長野西高等学校 海外語学研修 6日目報告書】

研修6日目。今日は変化の多い一日でした。この研修では毎日日記を書いています。その中に、

「今日も自分から話しかけられなかった。明日はがんばりたい。」

と書く生徒の多いこと。「明日は」と言っているうちにあつという間に日本へ帰る日となってしまいます。

できない自分・やらない自分に言い訳をしないで、とにかく行動！考えるのはその後！そんな一日でした。

授業中、発言の多い他国の生徒は積極的に先生と話をします。「発言がない＝意見がない、やる気がない」と思われてしまうのがインターナショナルクラスです。これまでクラスメイトに圧倒されてきましたが、今日は違いました。ペアワークではなく読み書きの問題が出た時、西高生はほぼ正解することができ、先生から「Amazing!」と高評価をいただきました。また、イラストを描く問題ではユニークな絵を披露できました。手先が器用な西高生にクラスメイトの生徒も認めざるを得ません。「やるね!」という一言を勝ち取りました。日本人同士で固まるのをやめるため、クラスで座る席をあえて一つずつ開けて座った生徒もいました。(これは「詰めて」と言われて失敗…でもナイスライです!)他にも、カフェテリアで授業前に会う約束を取ったり。(しかし約束の時間に現れないという、事前オリエンテーションで取り組んだケーススタディと同じ状況に!)明日はがんばるという気持ちから、がんばるために今行動する、というたくさんの姿を見ることができました。

午後のアクティビティでは、マグダレンカレッジを訪問しました。数あるオックスフォード大学のカレッジの一つで、1458年に創立されました。名前の由来となっているのは、聖書に出てくるマグダラのマリアです。ナルニア国物語の作者 C.S.ルイスは、このカレッジで作品書き、猫の実験で有名な物理学者シュレーディンガーは、このカレッジでノーベル賞を受賞しています。今では約600名の学部生・院生が学び、キャンパスの中には多くの鹿が暮らしています。紫陽花に彩られた中央回廊や礼拝堂、ハリーポッターの世界を彷彿とさせる食堂、「荘厳」という言葉が相応しいカレッジです。私たちが生活するラスキンカレッジとは異なる、イギリスの歴史を感じる体験をすることができました。

さて、今日の夜は一転。「荘厳」から「喧騒」の世界に誘われました。お待ちかね(?)のディスコナイトです。学びも一生懸命、遊ぶのも一生懸命!ということで、今夜は大音量の音楽と光のダンスフロアへ。少し戸惑いながらも、気が付けばDJの「Make some noise!!!」に合わせてクラスメイトと一緒に弾ける一同。昨日のアクティビティでスポーツには国境がないと感じていましたが、クラブの中でもそれは同じかもしれません。今まで怖いと感じていたクラスメイトにも、音楽の中で話してみたら普通に楽しかった。今夜の交流を通して、クラスメイトと打ち解けている姿が多く見られました。無意識に作っていたコンフォートゾーンを守る壁は、案外ちょっとしたことで崩れるのかもしれません。

イギリスでの生活を通して、もっと海外で生活したいという気持ちを強くした生徒がいる一方で、日本の良さを改めて感じる生徒もいました。今まで憧れだった海外での暮らしが、実際に体験してみたら思っていたのと違った。そう思うことは悪いことではありません。自分の適性を知ること、リアルな経験を通して得られることです。それぞれが自分の感情と向き合い、昨日の自分を越えていくためにトライ&エラーを繰り返しています。それこそが単なる語学研修ではない、観光旅行では決してない、西高生だからできる研修です。ラスキンカレッジで過ごすのは、残り一日。更なる成長にご期待ください。

以上、6日目のご報告です。

多国籍ランチ (スペイン・台湾・日本)



マグダレンカレッジの説明 (難しい…)



歴史を感じるカレッジのキャンパス



未来のノーベル賞受賞者がここに…?



紫陽花で溢れる回廊



おっかなびっくりだったディスコだけど…



踊ってみたら楽しい! 楽しい!

